2012 年植物科学シンポジウム

「植物科学最先端研究への期待」

2012 年 12 月 3 日（月）午前 10 時～午後 5 時 45 分

東京品川コクヨホール

主催：大学植物科学研究者ネットワーク

（独）理化学研究所植物科学研究センター

（独）農業生物資源研究所

（独）産業技術総合研究所

日本の植物科学研究は、広く文科省関係機関、農水省関係機関、経産省関係機関で実施されています。15 年ほど前まではそれぞれの機関が個々に独立して研究が実施されていました。しかし 21 世紀に入り省庁間の壁を乗り越え、研究者間では十分な情報交換を行うことの重要性が認識され、大学、理研、生物研、産総研の研究者が一堂に介して毎年 12 月初旬に植物科学シンポジウムを開催してきました。このような活動を通して各種の連携も具体的に進むようになってきました。また、研究者のみならず各省庁の関係するご担当部課にもご参加頂き、研究現場と政策立案企画担当課間の情報交換も行っています。このような連携活動の結果、この 10 年間、日本の植物科学研究は国際的にも大きく躍進してきています。

一方で、基礎科学研究の成果を社会的課題に繋げていく研究の重要性も指摘されています。20 世紀はまさに科学技術が牽引してきました。しかし、資源、環境、食料などに強く関わっている植物科学研究は、未だにテクノロジーとしての成果を多くは発信できていません。近年の分子生物学研究手法の発展で我々が多くのテクノロジーシーズを手にしつつある現在、植物科学が発信する資源、環境、食料などの確保と保全に向けた研究をさらに充実させ、長きにわたって持続可能な地球と社会の構築に貢献していきたいものです。

第一セッションで基礎から応用にわたる植物科学の次世代を担う若手研究者による最先端研究の成果を、第二セッションではまさに世界の第一線で活躍中の研究者が目指す社会からの要請に応える研究の成果に関する講演です。第三セッションではこれらの研究を支える各省の研究担当部局からの現状と今後の展開に関する発表です。これらのセッションを受けて第四セッションでは、持続的食糧生産、再生可能な資源とエネルギーの確保及び環境保全への植物科学の貢献について各方面から議論を深めます。

ご期待ください。

開催日時：2012 年 12 月 3 日（月）午前 10 時～午後 5 時 45 分
会　　場：東京品川コクヨホール

10:00-10:10　開会の辞

10:10-12:15：**若手研究者による最先端研究**

今泉（安楽）温子（農業生物資源研究所）「植物と有用土壌微生物との共生機構」

沼田　圭司（理化学研究所バイオマス工学研究プログラム）「酵素触媒を用いた新規バイオポリマー合成」

鞆　　達也（東京理科大学理学部、JST さきがけ研究者）「低エネルギー光による光合成光エネルギー変換」

佐塚　隆志（名古屋大学生物機能開発利用研究センター）「高バイオマス高糖性ソルガムの育種開発」

彦坂　幸毅（東北大学大学院生命科学研究科）「光合成・物質生産システムの最適化」

13:30-15:30：**食料・資源とエネルギーの確保及び環境保全のための植物科学研究**

廣近　洋彦（農業生物資源研究所）「新農業展開プロジェクトの成果と今後の展望」

近藤　昭彦（神戸大学大学院工学研究科）植物バイオマスから高機能バイオマテリアルの生産

斉藤　和季（理化学研究所植物科学研究センター）「ファイトケミカルゲノミクスからの展開によるレアプラント’甘草’のグリチルリチン生産にむけて」

松村　健　（産業技術総合研究所）「植物による物質生産の基盤技術開発から応用まで」

15:45-16:45：**各省の植物研究担当部局の取組み**

文部科学省、農林水産省、経済産業省

16:45-17:45：**パネルディスカッション「オールジャパン植物科学研究ネットワークへの期待」**

座長：篠崎　一雄（理化学研究所植物科学研究センター長）

座長からの問題提起：植物科学からの持続的食糧生産、再生可能な資源と
エネルギーの確保及び環境保全への貢献

パネラー：横山　伸也（鳥取環境大学、総合科学技術会議：バイオマス利活用サブリーダー）、廣近　洋彦（農業生物資源研究所）、高木　優（埼玉大学環境科学研究センター（兼産業技術総合研究所））、福田　裕穂（東京大学大学院理学系研究科（NC-CARP 代表））

３省の課（室）長

18:00-19:30：懇談会